



環境保全米通信



秋号
2023年9月発行

JAみやぎ登米

農薬・
化学肥料節減
栽培農産物

環境保全米
特別栽培
農産物生産ほ場

環境保全米の田んぼ
(宮城県登米市)

- 【もくじ】
1. あいコープみやぎ農薬不使用田んぼの「生き物調査」報告
～聴こえてくる 小さないのちの息づかい～
 2. 環境保全米拡大に向けて「環境保全米づくり研修会」を開催!
 3. 「tbc夏まつり2023」で環境保全米のPRを行いました!
 4. 環境保全米通信読者アンケートから

バックナンバーも
ご覧下さい。
(JA宮城中央会の
HPにリンク)



アンケート募集で
お米プレゼント!
詳細は最終面

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



『みやぎの環境保全米』とは

宮城の自然豊かな環境を守るために、農薬・化学肥料を県の標準的使用量の半分に減らし、自然と人間の力を合わせて生産されたお米です。
みやぎの「環境保全米」の取り組みは1992年のリオデジャネイロ地球環境サミットをきっかけに始まっており、SDGs（持続可能な開発目標の実践そのものです。

1. あいコープみやぎ農薬不使用田んぼの「生き物調査」報告 ～聴こえてくる 小さいのちの息づかい～



あいコープには、組合員が産地と共に取り組む「農薬不使用田んぼ」があります。今回は、仙台市の沿岸部、七郷地区で農業を営む「七郷みつば会」の協力の下、2019年から取り組んでいる七郷トライ田んぼを紹介し、毎年10組ほどの家族が登録し農薬化学肥料不使用の稲作を体験します。この田んぼで行われる恒例行事が「むかっち先生こと向井康夫先生（むかい*いきもの研究所代表）との生きもの調べ」です。今年7月15日に行われ、登録家族9組が集まりました。



田んぼの水と生き物の採集

参加者は雨降りにもかかわらず、いつも農作業をする七郷の「トライ田んぼ」のあぜ道に並びます。目の細かい網で田んぼの水ごと生き物を採集。さあこれを会場となる笹屋敷公会堂へ運んで、むかっち先生と調査です。

むかっち先生と見る世界は小さな小さな生き物の世界。ルーペや顕微鏡も使って、農薬化学肥料不使用田んぼの水で生きている生き物の種類を見ていきます。ドジョウ、アメンボ、フタバカゲロウ・・・ミジンコやダニまで！カエルやトンボのように目に見えるものだけでなく、水の中にはたくさんの命が息づいていることがわかります。子どもも大人も夢中で探し、見つけた生き物を先生が模造紙に書き出してくれました。



トレーに移すと生き物が見えてくる

農薬の中には、殺虫剤をはじめ環境に影響のあるものが少なくありません。米作りにとっては「害虫」でも、それを食べる虫もいて、生き物の多様性とバランスが大事です。なんと厄介者の雑草「コナギ」を食べる「オオミズゾウムシ」という虫もいるとか。韓国ではすでに研究が始まっていると、むかっち先生が教えてくれました。

生き物を元の田んぼにそっと返して調査は終了！農薬不使用の米作りを続けることで、田んぼにどんな変化が現れるか、これからも毎年調査していきます。

(あいコープみやぎ機関紙あいあいあいより引用)



説明をするむかっち先生



製氷皿を使い生き物を種類ごとに分ける



顕微鏡で見る事ができたフタバカゲロウ



モニターを使いマルミジンコの姿もみんなで観察

2. 環境保全米拡大に向けて「環境保全米づくり研修会」を開催!

化学肥料や農薬の使用量を、慣行米（ふつうのお米）の半分以下で栽培する環境保全米の作付け拡大を目指し、JA宮城中央会とNPO法人環境保全米ネットワークの共催で「令和5年度環境保全米づくり研修会」を開催しました。

第1回目は7月14日に栗原市のJA新みやぎ築館支店で行い、県北部の4JAの稲作部会代表者やJA担当者ら29名が参加し、第2回目は8月28日に柴田町のJAみやぎ仙南本店で行い、県南部4JAの生産者やJA担当者ら29名が参加しました。

「みやぎの環境保全米」づくりは、平成3年、農薬を空中散布していたヘリコプターが、誤って浄水場に農薬を散布した事故をきっかけに平成8年から始まりました。

NPO法人環境保全米ネットワークの高橋芳道理事長は、環境保全米づくりの歩みと目指す方向について講演。「令和3年産は、みやぎ米飯学校給食支援方式に加入している32市町村のうち、26市町村で学校給食に環境保全米を年間通じて100%提供できました。子どもたちのために他県のモデルになる施策を実現していきましょう」と呼びかけました。



令和5年度環境保全米づくり研修会の受講風景

また、実践事例を発表した仙台市泉区の稲作農家熊谷貴幸さん（31歳）は「2歳になる自分の子どもに安全安心なお米を食べてもらいたい、という思いで栽培している」と語り、栽培で工夫していることなどを紹介しました。

JAグループ宮城は平成19年、「環境保全米づくり全県運動」を開始。同年、生産者や消費者、県、報道機関、在仙プロスポーツチームなどで構成する「みやぎの環境保全米県民会議」が発足し、この運動を支援しています。

令和2年11月から多くの市町村で、学校給食への「環境保全米ひとめぼれ1等米」の提供が始まり、令和3年産は供給量に占める割合が82%に達しました。しかし、生産量が少ないため途中で慣行米に切り替わる地域があることから、今後一層の作付け拡大を目指しています。



生産者の実践事例を発表した熊谷農園の熊谷貴幸さん

3. 「tbc 夏まつり 2023」で環境保全米のPRを行いました!

みやぎの環境保全米県民会議（事務局：JA宮城中央会）は、7月22日（土）、23日（日）に仙台市の勾当台公園・市民広場で開かれた「tbc夏まつり2023」（東北放送主催）に参加し、「みやぎの環境保全米」をPRしました。会場で「みやぎライシーレディ」がPR冊子を配りながら「みやぎの環境保全米は、化学肥料や農薬をふつうにつくるお米の半分に減らして栽培したお米です。」などとアピールしました。また、来場者にアンケートを実施し、回答者には抽選で「環境保全米ひとめぼれ」などを贈呈しました。

当選者の一人は「環境保全米は食べたことがない。早速食べてみたい。」と喜んでいました。2日間の来場者数は106,000人、アンケートは約1,000人の方々にご回答頂きました。



PRチラシを配布するライシーレディ

2023環境保全米通信夏号のアンケートにご意見をお寄せいただきましてありがとうございました。



4.環境保全米通信読者アンケートから



Q1 興味を持った記事は?その理由も。 Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

Q1 「環境保全米を買う・味わう」のコーナー

富谷市の元気くん市場へ行った翌日にこの通信をいただいてタイムリーにご縁を感じてアンケートを出すことにしました。

今度行くときにはお米の量り売りもできるとの情報がありがたかったので購入してみたいと思いました。

Q2 最近、環境保全米が出てきたのであれば、今までのそ
うでないお米は環境に負荷をかけて作られていたの
ですか? (利府町・40代女性)

Q1 「環境保全米を買う・味わう」のコーナー

地元菓子店とコラボした「みやとめさんクッキー」いいですね!

Q2 環境保全米への取り組みを広げるための工夫、農家さんへの呼びかけをどのようにしているのか? 飼料米での割合は? (利府町・50代女性)

Q1 環境保全米コラム

環境保全米作付け面積が16,040ha (泉区分の広さ)と書かれていた時はいまいちピンときませんでした。主食用米の約3割の面積と見て驚きました。沢山の方々が環境を守るために活動しているんですね。

Q2 環境保全米の取り組みについて、宮城県の今後の展望があれば、知りたいです。 (大崎市・20代男性)

Q1 ササニシキ誕生60周年記念事業

子どもたちにも参加させたいイベントだと思ったので、興味深く、これからもあるイベントか気になりました。

Q2 環境保全米を使っているお店を特集してほしいと思いました。 (仙台市・40代男性)

Q1 ササニシキ誕生60周年記念事業

小さい頃によく食べていたササニシキが60年を迎えた事が感慨深いと思いました。今も好きですが、なかなか作る農家さんが少ないと切なくなります。

Q2 宮城県内でどれだけ環境保全米が食べられているのでしょうか? (仙台市・40代女性)

Q1 表紙

宮城を代表する良いものがたくさん詰まっていて興味がわきました。

Q2 普段利用している元気くん市場の記事もとても良かったです。

どこかの道の駅でも環境保全米が買えるのかな? が知りたいので紹介して欲しいです。

tbc夏祭りのイベントで環境保全米通信を頂きました。このご縁で見る、知るから次は「味わう」を体験してみたいです。実家は、元米店だったのでお米への関心があります。 (川崎町・50代女性)

Q1 表紙

むすび丸、クラッチ、みやぎライシーレディのアップ写真が目立って、今までの環境保全米通信と違うという印象を受けました。

ページをめくれば、とても楽しいイベントの様子が伝わってきました。

Q2 環境保全米がお米だけでなく、米粉商品も発売していると知ってビックリです。

おにぎり店独自で、ササニシキ、ひとめぼれブレンドの米飯で発売しているなど、お米に関心のもてる話題を提供してほしいと思います。 (仙台市・50代女性)

読者の皆様からお寄せいただいた、疑問や取り上げて欲しいテーマについては、次号以降で取り上げていくよう努力してまいります。



ご感想をお寄せください

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で、環境保全米2キログラムを10名様にプレゼント!

Q1 興味を持った記事は?その理由も。

【アンケート記入例】

Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

- 応募方法/次の項目をご記入の上、FAX・メール・郵送で応募先までお送りください。
・アンケートの回答 ・お名前 ・年齢 ・ご住所 ・電話(FAX)番号
いただいた回答および個人情報は当法人にて厳重に管理しプレゼントの発送、または各種情報の提供、イベントの案内以外の目的では使用いたしません。

●応募締切/2023年10月31日(火)消印有効 ※抽選結果は発送をもってかえさせていただきます。

●応募先/NPO法人環境保全米ネットワーク事務局

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-16-3 JAビル別館5F
TEL:022-261-7348 FAX:022-261-7488
E-mail:okome@epfnetwork.org URL:http://www.epfnetwork.org/

●アンケートの回答

Q1 _____

Q2 _____

●名前 保全米 太郎

●年齢 40才

●住所

〒980-0011
宮城県仙台市青葉区
上杉1-16-3

●電話番号

022-261-7348

